

TOEIC® Magazine

FOR STUDENTS

◎学生生活×SNS「使える」英語フレーズ

◎大学生の本音。「わたしが、英語にしたい」と



Special
Interview

未来に効く、英語。

Skaai (ラッパー) 「渡米してつかんだ“音楽への覚悟”」

佐々木芳幸 (起業家) 「英語が教えてくれた、仕事と人生」

TOEIC® Tests は、 なりたい未来に効く。

はじめまして、TOEIC Tests です。わたしたちは、あなたの英語力をスコアで可視化するテストです。その役割は「採点」ではなく「応援」。あなたの英語を、未来を、応援したいのです。「英語力」は就活や仕事に役立つことはもちろん、友だち、恋愛、カルチャーなど、あなたの人生におけるさまざまな出会いや選択肢を増やし、より彩り豊かな明日へと導いてくれます。TOEIC Tests は、大学生の皆さんの「なりたい未来」を叶えたい。あらゆるボーダーが問い直されるグローバル時代を生きる、あなたのパートナーになれたらうれしいです。

Hi, everyone. TOEIC Tests visualize your English proficiency via scores. Our purpose is not “grading,” but “supporting.” We want to support your English skills for your future. “English proficiency” not only benefits you in job hunting and business, but also expands your friendships, love, and cultural experiences, so as to provide various opportunities in your life, leading you to a more colorful and prosperous future. TOEIC fulfills your future goals. We want to accompany you to cross and explore diverse borders in the upcoming global era.

TOEIC®
Magazine
for Students



インタビュー動画公開中!

Hello, future.

未来に効く、英語。

英語、さらにTOEIC Testsについて、世界で活躍する先輩にインタビュー。1人目は、オーディション番組「ラップスタア誕生!」(ABEMA)にて、学業と音楽の両立に苦悩する様子が感動を呼んだラッパーのSkaaiさん。ときに内省的な彼の楽曲の背景には、多様なバックグラウンド、そして中学生にしてアメリカへ渡った原体験が深く関わっているという。

Skaai, Rapper
Skaai
ラッパー

“みんなと違う”疎外感、渡米して
「表現で生きる」覚悟に変わった。

The sense of “being different from everyone else”
turned into a determination to “live through expression”
after going to the United States.

大学院で法学の研究をしながらラッパーとしての活動を開始し、23歳のときに「本格的にアーティストとして生きていく」と決断しました。その決断には英語が関わっています。

僕は、韓国人と中国系マレーシア人のミックスで、日本育ちのアメリカ国籍。子どものころから、「アメリカ人のくせに英語話せないの?」なんてイジられることもあり……「それならアメリカに行ってみよう」と思って、中学からひとりで渡米しました。

アメリカの子どもたちの世界では、「日本から持ってきた文房具を見せて一瞬人気者になる」みたいなことはあっても、本当の意味で認めてもらうためには「言葉」が必須。なんとかしたい一心で“スーパーの前で、通りかかったアメリカの老夫婦に話しかける”なんてことをして会話の訓

While studying law in graduate school, I started my career as a rapper. The decision I made at the age of 23 to “live as a full-fledged artist” is closely tied to the English language in my life.

I have a mixed background. My parents are South Korean and Malaysian Chinese. I grew up in Japan with American citizenship. Since childhood, I would often hear words like, “Why can’t you speak English even though you’re American?” That motivated me to think, “If that’s the case, I’ll go to America,” and I moved to the United States from middle school.

In the world of American kids, showcasing stationery brought from Japan to be popular for a moment was one thing, but to truly gain acceptance, “language” was essential. To achieve the goal, I even trained myself by approaching American elderly couples passing by in front of a supermarket to engage in conversations. This way, I could experience the small success of



練をしたことも。そうすると「まず会話のキャッチボールができた」っていう小さな成功体験を感じられ、徐々に“英語圏で、相手の懐に入る”というスキルも身につけていきました。

ただ、英語圏で暮らすうちに、“ノリ”でなんとかなるレベル以上の英語スキルを必要と感じるようになりました。日本に一時帰国したときに初めてTOEICを受け、大学に入ってから定期的に受けていました。やっぱり、スコアが積み重なっていくことで、成功体験を感じられるのがうれしかったし「やるならガチで」という気持ちで、真剣に受けていましたね。大学院（九州大学大学院法学府国際コース）に進学したときも、授業は英語。アクセスできる文献の範囲も、英語スキルのおかげで広がった。そのまま研究者となる進路もあり得ました。

“みんなと同じ”かどうかじゃない。

「俺はどう生きる？」

日本にいた子ども時代から、「家でたまに外国語が聞こえる」「ウチだけおせち料理が出ない」とか、“みんなと違う”ということがどこか引っかかっていました。

でも、アメリカに行ったら、まわりは「フランスとドイツのミックスでアイルランド生まれ」とか、いっぱいいる。そんなことよりも、むしろ「自分は誰なんだ？」という問題のほうがどんどん大きくなってきた。「親とかじゃない、俺はどう生きるんだ？」って。

そんな原体験があって、最終的には研究者の道ではなく、「音楽で自分を表現しつづける人生にする」と決められたんです。

アーティストとして活動しはじめてからも、英語を話せることのメリットを感じます。自分の音楽を聴いてくれた海外のミュージシャンから、DMが来ることがある。それにすぐ英語で返せたり、セッションしようとなったときにコミュニケーションが取れたり。

表現としても、リリックのなかで、ガツンとカマさないといけないときには英語、内省的な箇所は日本語で、と使い分けができる。逆に、「頭のなかにある想いを一番表現できるのはどの言語

だろう？」と悩むこともある。言語って不器用なところもあって……なんだろう、面白いですね。

国境を越えることで、「自分」が見えてくる。

人生は有限じゃないですか。知らない世界を、見ないまま終わるのはもったいないと思うんです。アメリカに行って日本を眺めてみると、「日本ってこんな国だったんだ」って思うことがいろいろあって。「同じニュースでも、アメリカではこんなふうに報道しているんだ」とか。そうやって比較できると、“日本って住みやすい国だな”あるいは“住みにくい国だな”と、自分なりの観点を持てるようになる。自分たちのことをより知るために、海外に行くことは大事だと思います。

よく「音楽のパワーは言語を超える」って言いますよね。実際、超えると思うんですよ。僕は音楽が大好きで、ヒップホップアーティストをやっていて、そう感じることもある。

でも、大学生のうちって、まだそこまで好きなものに出会えてない人もいますよね。まだ「これだ」と思えるものが見つかってない人こそ、まずは英語という“武器”を手に入れることはすごくいいと思います。僕も最初はそうだった。無理強いはしたくないけど、武器を手に入れば「可能性が広がるよ」と伝えたいですね。

※TOEIC: TOEIC L&R



being able to catch a conversation at first, and gradually, I developed the skills to figure out how to connect with someone in an English-speaking environment.

However, living in an English-speaking environment made me realize that I needed to improve my English from the beginner level, which simply follows the vibe of a conversation. I even took TOEIC Tests when I returned to Japan temporarily. Seeing my scores accumulate was truly satisfying. From that point on, I made up my mind to try my best and took the test seriously. Even when I entered the graduate school (International Course, Graduate School of Law at Kyushu University), the classes were conducted in English. I expanded the range of accessible literature, thanks to my English skills, and the path of becoming a researcher seemed possible.

It's not about being "the same as everyone else."

It's about "how do I want to live?"

For me, even when I was a child growing up in Japan, there were always things that made me feel somewhat different. For instance, my family's way of speaking at home was slightly different from Japanese, or we didn't have *osechi* dishes for New Year like everyone else. Being different from others bothered me.

But when I went to the United States, I was surrounded by various students such as those whose parents are French and German, but born in Ireland, and so on. Despite that, I started to ask a bigger question, "Who am I?" It was not about my parents; it was about how I wanted to live.

With that kind of original experience, I eventually chose a path as an artist who uses music to express myself instead of living as a researcher.

Even after starting my career as an artist, I feel the benefits of being able to speak English. Musicians from abroad who listen to my music sometimes send me a DM (direct message). I can respond to them in English and communicate if they want to collaborate.

In terms of expression, I can switch between English, when I need something to pack a punch in my lyrics, and Japanese for introspective moments. Conversely, I sometimes wonder, "Which language would best express the thoughts in my head?" Languages can be awkward at times...anyway, it is quite fascinating.

Crossing borders allows you to see "yourself"

Lifetime is limited, isn't it? I think it is a shame to come to the end without seeing unknown worlds. After going to the U.S. and



looking at Japan from there, I re-examined Japan and came to realize that "This is how Japan is," or "Although the news is the same, how it is reported in Japan is so different from that in America," and so on. By making these comparisons, you can develop your own point of view about Japan, thinking it is either "a comfortable place to live" or "an uncomfortable place." Going abroad is important to understand more about yourself.

People often say, "The power of music transcends language." I really think it does. I love music, I do hip-hop, and I feel it is right.

However, it is true that people may not find what they really like during their time at university. For those who cannot find their passion and continue searching, I highly recommend learning English and using it as a tool! I thought that from the very beginning as well. I do not want to force you to do something, but I want to convey that once you acquire this "tool," it will provide you with more possibilities.

Skaai

1997年生まれ。九州大学大学院を中退後、本格的にラッパーとして活動開始。日本語、英語、韓国語によってつづられるリリックに注目が集まり、「Period.」「Nectar.」などの楽曲が話題に。2023年、EP「WE'LL DIE THIS WAY」をリリース

「学生起業」からスタートしたmonopo社。立ち上げから約10年で、世界5都市に拠点をもち、各国の一流クリエイターと、グローバル企業の広告クリエイティブを手掛けるクリエイティブエージェンシーへと成長した。代表の佐々木芳幸さんに「英語」について話を聞いた。

YOSHIYUKI SASAKI, CEO, monopo inc.

佐々木芳幸
monopo代表

起業家として、人として。 ピュアに楽しむ人生を、 英語が教えてくれた。

As an entrepreneur and as a human being:
English guided me to embrace a purely enjoyable life.

今でこそ、ビジネス上のコミュニケーションも英語でできるようになって、楽しく働けていますが、学生時代はずっと、英語が苦手だったんです。大学に入ってから、音楽サークルの活動と、起業に没頭。そのとき、付き合っていたパートナーに「起業家なら、英語を話せたほうがいい」と、英語学習をすすめられたことを覚えています。彼女は外資系企業に就職するためにデート中も英語を勉強しているような人。僕は、周りに先んじて大人のように仕事しているというプライドがあって、素直にアドバイスを聞けませんでした。

そこから数年。広告などの「受託制作」をメインにしたmonopoの事業は順調に伸びて、24、25歳でいいオフィスを構えて……僕は調子に乗っていました。（成長やモチベーションの）限界が来ちゃって、何をやっても空虚感があった。そんな状態だったからか、彼女にもフラれちゃって。呆然としているなか、「彼女に言われたことを全部やって、見返してやろう」と英会話教室に通って……たしか、TOEICの問題集も買いました。今思えば、あそこがターニングポイントだった。

英語なら、雑念なく
「ビジョン」を語ることができた。

当時の自分は、経営者でありながら会社の方向性を指し示す「ビジョン」を社員に示せなくて、もがいている状態。「カッコつけて『ビジョン』

とか言っている会社、ダセえよ」なんて斜に構えてもいました。

それが、英会話教室の先生と雑談しているうちに、「英語なら自分の考えを素直にアウトプットできている自分」に気付いたんです。日本語だと「こんなこと言うのは野暮だな」「カッコよく思われたい」とか、雑念が入る。でも、当時の僕は拙い英語しか話せないし、言語的な特性もあるのかな。自分の考えを、ピュアに話すことができたんです。先生も「クールじゃないか！ もっとくれ！」と。そこから、「お前がもしニューヨークのド真ん中でプレゼンする機会があったら、どんなことを話すんだ？」と、質問してもらい、会社のビジョンを英会話のレッスン中に英語でアウトプットしながらいっしょにつくっていきました。

そこから事業も少しずつ変わっていったのかもしれない。2016年に英語の先生と一緒に「poweredby.tokyo」という東京のクリエイターやスポットを海外に紹介するメディアを立ち上げると、それを見た海外の有名ブランドから、広告の仕事を多数依頼されるようになりました。

好きな人とのコミュニケーションが、
仕事と人生を豊かにしてくれる。

僕らは毎月、東京オフィスで「monopo night」

という交流イベントを主催しているのですが、2019年に、ロンドン支社を設立した際、現地でもイベントを開くことになったんです。到着した初めての夜、会場には100人ものクリエイターたちが集まってくれていました。壇上で英語でスピーチしたんですが……僕、泣いちゃったんですよ。組織をうまくリードできない自分に悩んだこともあったけど、こんなにも多くの人と気持ちを通い合わせることができた。最高の経験でしたね。

現在のmonopoは、海外クリエイターと協業して広告クリエイティブを生み出せることが強みのひとつ。英語は「自分が好きなクリエイターたち

Now I can fluently use English at work, and business communications are conducted mainly in English. However, during my student years, I struggled with English. When I entered university, I was engrossed in music club activities while focusing on launching my business. I distinctly remember my partner said "If you want to be an entrepreneur, speaking English is essential." She was the kind of person who would study English even during our dates because she aspired to work for a foreign-affiliated company. I had my pride of feeling like I was already working like an adult, ahead of those around me, which made it hard for me to follow her advice.

After a few years, "monopo" was growing steadily by mainly focusing on commissioned advertising production on an outsourcing basis, and I even had my own office at the age of 24 or 25...Then I became cocky. I reached the limit (of my growth and motivation), and I felt a sense of emptiness no matter what I did. Perhaps due to that state, I also went through a breakup with my girlfriend. I was in shock and thought, "I'll do everything she told me and prove myself." So, I started attending English conversation classes, and I even bought a TOEIC study guide. When I look back, I think that was the turning point.

If it is in English, I could express my "vision" without distraction.

At that time, as an entrepreneur, I was struggling because I could not effectively convey the company's direction or a "vision" to my employees. I had an attitude of brushing it off with comments like, "Companies talking about their 'vision' are not cool."

It was during casual conversations with my English teacher that I realized something: "If it is in English, I can genuinely express my thoughts."

In Japanese, I would often have thoughts like, "I want to appear cool," and distractions would creep in. But back then, I could only speak basic English, and perhaps due to the linguistic characteristics, I was able to purely express my thoughts. My teacher even said, "You're cool! Speak more!" From there, during English lessons, we started creating the company's vision together, with my teacher asking me questions like, "If you had the opportunity to do a presentation right in the heart of New York, what would you talk about?"

My approach to work may have gradually changed as well. In 2016, I founded a media platform called "poweredby.tokyo" that showcases creators and spots in Tokyo.

とコミュニケーションして、仕事をする」ために、重要なツールとなっています。

大学生の皆さんにアドバイスですか？ 大学時代って、自分に悶々として苦しむと思うんです。それって、内省が深まる大事な時間。内省した考えをアウトプットして整理するためにも英語学習をスタートするのはいいことだと思います。「人生を変えたい、ターニングポイントにしたい」と思ったら、スタートの合図的にTOEICを受験してみるといいと思いますよ。僕も、素直にもっと早くから始めておけばよかったって思ってます（笑）。

※TOEIC: TOEIC L&R

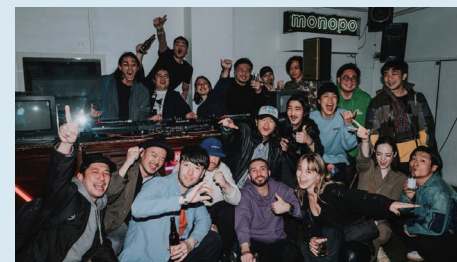
Through that idea, I started receiving many job requests for advertising projects from overseas.

Communication with people you like enriches both your work and life.

In Tokyo, we host a monthly networking event called "monopo night," and in 2019, we established a London branch. Eventually, we decided to hold this event in the UK as well. On the first night, about 100 creators gathered at the venue. I delivered a speech in English, and I cried. I had faced challenges in leading the organization effectively, but being able to connect with so many people and talk about my feelings was a fantastic experience.

Today, one of monopo's strengths is the ability to collaborate with international creators and generate advertising creativity. English has become a crucial tool for us to communicate and work with the creators we admire.

Is there any advice for students? I believe that during your years at university, you may often feel restless and struggle with your thoughts. However, it is an important time for deep introspection. Starting to learn English could be a great way to express your thoughts and organize them. If you ever think, "I want to have a new beginning of life," I think TOEIC Tests are a good starting point. I also wish I had started it earlier (Laughs).



国境を超え、クリエイターが集うmonopo社

佐々木芳幸 / Yoshiyuki Sasaki

北海道出身。2011年、早稲田大学在学中にmonopoを学生起業。現在は多国籍なクリエイターが所属し、国内外の企業のブランド戦略、広告企画などを手掛ける企業となる



TOEIC® Magazine

FOR STUDENTS
インタビュー動画公開中!



大学生の本音。

わたしが、 英語で“したいこと”

①新井凜子 立命館アジア太平洋大学1年(東京都出身)「現在留学準備中。北欧に行って、“幸福度”が高い国の価値観に触れたいです」②清水虹希 慶應義塾大学3年(東京都出身)「世界中で選ばれるブランドをつくりたい。そのためにインターンも頑張ってます」③渡邊太郎 横

浜市立大学2年(大分県出身)「クラウドファンディングを募って海外旅に挑戦中。次はインドに行きます」④神下芽衣 聖心女子大学大学院1年(東京都出身)「教育について研究しながら、ラジオパーソナリティと高校の英語の先生をしています」⑤風間杏太 青山学院大学3年(埼玉県出身)「クイズ研究会で学んだ世界遺産を訪れたい。そのためにTOEICも受験して、800点台後半を取りました!」⑥山本倫平 早稲田大学4年(福岡県出身)「カメラに夢中。世界で撮影してみたいです。TOEICは就職する会社から必要と言われ、受験しましたよ」⑦久喜航司 東京理科大学3年(神奈川県出身)「フィリピンのセブ島が大好きで、仲間を誘って何度も行っ

ています」⑧上島衣理 東京都立大学3年(高知県出身)「海外生活に憧れ。そのためにもうちょっとTOEICを頑張りたいです……!」⑨山形優梨音 東京音楽大学3年(北海道出身)「ボーカルとコーラスを務める学生楽団『J-POP CLASSIC CLUB TOKYO』の動画が450万回以上再生されています」⑩大内貴仁 慶應義塾大学3年(神奈川県出身)「ブレイクダンスと就活、どちらも全力投球中!」⑪ライオン恵 上智大学2年(北海道出身)「中学生のころから女優になるのが夢。歌や演技で世界進出します!」⑫栗田雄貴 法政大学4年(神奈川県出身)「生成AIに熱中しています。AIのプロンプトは英語の方が効きやすいので、重要性を感じます」⑬宮崎桃歌 明

治大学3年(愛知県出身)「演劇に熱中していて、大学でアメリカ映画の研究も。作品内の英語の微妙なニュアンスを理解できるようになりたい」⑭永井杏奈 学習院女子大学3年(栃木県出身)「ワーキングホリデーで、オーストラリアに行くのが夢! 接客の仕事をしてみたい」⑮原 龍大 多摩美術大学1年(東京都出身)「映画監督になって、世界で注目される作品をつくりたいです」⑯ティンレイ 早稲田大学3年(ミャンマー出身)「英語をツールとして、世界中の人々と働き、母国や周囲の人々の役に立ちたい」⑰岡野興基 早稲田大学2年(神奈川県出身)「フリースタイルバスケットボールサークルに所属しています」※TOEIC=TOEIC L&R

見て知る！

TOEIC® Tests

TOEIC Tests 3つの特長

01

合否でなくスコア！
SCORE

結果がスコアで出るから、今の英語力が数値で確認できるし伸びも把握できる。

02

世界共通！
GLOBAL STANDARD

世界160カ国、14,000団体で使われているグローバルなテスト。国内では2,900団体*が利用している。 ※TOEIC Program

03

コミュニケーションにつながる
COMMUNICATION DRIVEN

知識や教養より、オフィスや日常での実践的なコミュニケーション能力を測定する。

TOEIC Testsをより深く、より楽しく知っていただくために、ここでは、さまざまな情報をわかりやすくご紹介！そもそもの「概要」から、「皆がどんな目的で受けているか？」さらには、気になる「就活との関連性」まで……。受験することで得られるメリットも、きっとイメージできるはず！

TOEIC Testsの種類って？

TOEIC Listening & Reading Test

SCORE	10-	TOTAL	990
5-	Listening 495	5-	Reading 495

TOEIC Speaking & Writing Tests

SCORE	0-	Speaking	200	0-	Writing	200
-------	----	----------	-----	----	---------	-----

TOEIC Testsとは、「聞く」「読む」英語力をマークシート形式で測る一斉客観テストの「TOEIC Listening & Reading Test」と、「話す」「書く」英語力をPCを使って実施し人が採点する「TOEIC Speaking & Writing Tests」のこと。どちらもアメリカのテスト開発機関「ETS」が作ったテストで、採点もETSでおこなわれている。

どんなことができるようになる？



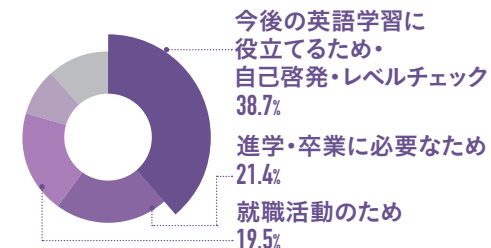
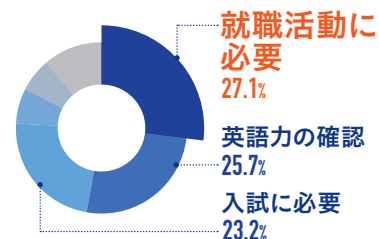
800点は、友人・知人のいるパーティーで英語でスピーチができるレベル。600点は、空港の出入国カウンターでやりとりができるレベル。300点でも、自己紹介で家族構成について説明できるレベル。あなたは何をしたい？

※TOEIC L&R Can Doガイド【学生用】より

大学生がTOEIC Testsを受ける理由って？

TOEIC Listening & Reading Test

TOEIC Speaking & Writing Tests



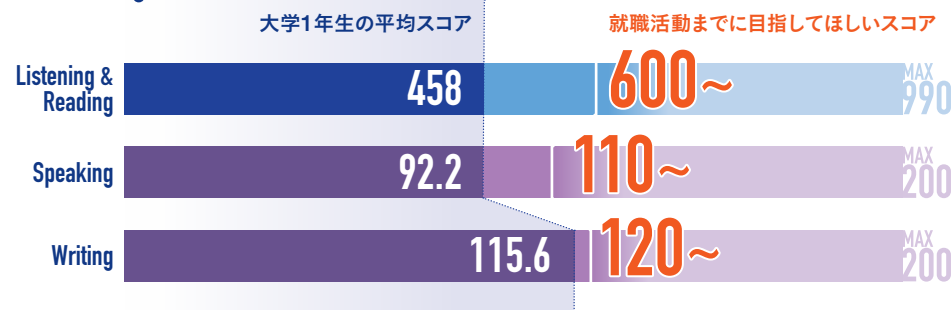
受験の目的を調査！大学生・短大生のテスト申し込み時のアンケートでは、TOEIC L&Rで「就職活動に必要」が27.1%でトップに。下記のスコアを目指して、アピールするのもオススメ！ほか、「英語力の確認」や「進学のため」という声も。

※TOEIC Tests公開テスト申込時アンケート(2022年度)より

POINT

社会人(20代)になってからも「昇進」「転職」のために受ける人が30%程度いる！

就活のためにはどのくらいのスコアを目指せばいい？



大学1年生の平均スコアと、「就職活動までに目指してほしいスコア」を比較。少し開きはあるが、「未来」のために楽しんで学べば、吸収もはやいはず！

※大学1年生の平均スコア＝「TOEIC Program DATA & ANALYSIS 2023」IPテストデータより

もっと知りたい！テストを受けたい！なら？



<https://www.iibc-global.org/toeic/special.html>

2次元コードを読み込んでアクセス！



まずはTOEIC公式サイトへ。テスト日程や申込だけでなく、キャンペーンなどお得な情報も発信中！

Let's
Try!

TOEIC® Tests サンプル問題

英語力を生かして活躍する人たちが、TOEIC Testsの概要についてお伝えしてきましたが……ここでは「実際にどんな問題が出るの?」という疑問にお答えして、TOEIC L&RとTOEIC S&Wの一部をご紹介します。

TOEIC® Listening & Reading Test



公式サイトで
サンプル問題に
もっとトライ!

Listening

写真描写問題

写真について説明文を聞いて、
的確に言い表している文章を選びましょう。
※実際の説明文は音声だけで出題されます。



- (A) He's shoveling some soil.
- (B) He's moving a wheelbarrow.
- (C) He's cutting some grass.
- (D) He's planting a tree.

Reading

1つの文書・複数の文書

いろいろな形式の文書を読んで、
設問に対する答えを選びましょう。

What is suggested about Mr. Bach?

- (A) He has been to Kansai more than once.
- (B) He currently works in Beijing.
- (C) He is on a business trip.
- (D) He works for Fly Right Airlines.

SAM BACH	11:59
My first flight was delayed, so I missed my connection in Beijing.	
SAM BACH	12:00
So now, I'm going to be on a flight arriving in Kansai at 18:00.	
AKIRA OTANI	12:05
OK. Same airline?	
SAM BACH	12:06
It's still Fly Right Airlines. It will be later in the day but still in time for our client meeting.	
AKIRA OTANI	12:06
I'll confirm the arrival time. Do you have any checked bags?	
SAM BACH	12:10
I do. Would you mind meeting me at the door after I go through customs?	
AKIRA OTANI	12:15
Sure thing. Parking spots can be hard to find, but now I'll have extra time to drive around and look.	
SAM BACH	12:16
Yes, sorry about that. See you then!	

TOEIC® Speaking & Writing Tests



公式サイトで
サンプル問題に
もっとトライ!

Speaking

写真描写問題

写真に写っている内容を話して説明してみましょう。

Point

全体から細部にポイントをしばっていくと伝えやすいです。

- ・この写真の場所やシーンは?
- ・どこに何が見える? (右には? 中央には?)

解答例

It looks like this is a picture of a fruit shop. I see some bananas and oranges. There are many people in front of the shop. On the right side of the picture, a mother and child are leaning forward to look at the fruit. In the middle of the picture, there is a man in a red shirt. He might be the shopkeeper.



Writing

Eメール作成問題

Eメールを読んで返信を書いてみましょう。

From: Dale City Welcome Committee
To: New Dale City Residents
Subject: Welcome to your new home!
Sent: July 23, 4:32 P.M.

Welcome! We would like to be the first to welcome you to Dale City. We know that there are many things to do when you move, from finding your way around town to setting up your utilities. Please contact us if you need any help at all.

引っ越してきたつもりで、知りたい情報を2つ入れて返信を書いてみましょう。

Point

問題文で、何を求められているかを理解しよう。基本的なEメールの型を知っておくと応用がききます! 正確に書くことより、相手に意味が伝わることを意識しよう!

解答例

Dear Sir or Mam, I have just moved here, Dale City. Since I have little knowledge about this city, I may have to ask you for some information. First, I need a house not far from the company I have been assigned to. I am not asking you to find me a place to live in. I need a contact number for a real estate agency which I can trust. With your recommendation to a reliable agency, I can find a place at a reasonable price. Also, I want some information on rental car. I may not use a car that often, but I need one by next week to give a ride to my uncle at the airport. Thank you for your help in advance.

なりたい未来に効く

「私の目標」

DATE

/ /

Think about your future!

ここまで読んでくれたあなたなら、「なりたい未来」を叶えるために英語が可能性を広げてくれると伝わったはず。そこで、目標シートを作ってみよう！まずは左ページの真ん中に、あなたの「なりたい未来」をなるべく具体的に書いてみて。そして、実現のために必要なことや、取り組みたいことを周りのマスに書いてみよう。「英語」マスにはぜひ英語に関わることを！（例：「TOEIC L&Rで700点クリア！」）右ページには、未来の自分へのメッセージとTOEIC Testsのスコアを記入していこう。

01

カテゴリ

目標

02

カテゴリ

目標

03

カテゴリ

英語

目標

04

カテゴリ

目標

05

カテゴリ

目標

06

カテゴリ

目標

07

カテゴリ

目標

08

カテゴリ

目標

私のなりたい未来は…

FUTURE

- [カテゴリ例]
- 学び(学業、研究、資格…)
 - お金(バイト、貯金、投資…)
 - 人間関係(家族、恋愛、友だち、人脈づくり…)

SNSでシェアしよう
Share on SNS!
#TOEICmagazine



3ヵ月後の自分へメッセージ

目標 TOEIC Tests
スコア

(L)

(R)

(S)

(W)

結果 TOEIC Tests
スコア

(L)

(R)

(S)

(W)

Message to myself 3 months later

1年後の自分へメッセージ

目標 TOEIC Tests
スコア

(L)

(R)

(S)

(W)

結果 TOEIC Tests
スコア

(L)

(R)

(S)

(W)

Message to myself 1 year later

3年後の自分へメッセージ

目標 TOEIC Tests
スコア

(L)

(R)

(S)

(W)

結果 TOEIC Tests
スコア

(L)

(R)

(S)

(W)

Message to myself 3 years later

(L): Listening (R): Reading (S): Speaking (W): Writing

Message to myself 3 years later

学生生活×SNS

「使える」
英語フレーズ

The exam is finally over!

やっとテスト終わった！



～is over＝～が終了する

My report
will never end.

レポート一生終わらん…

never end
＝終わりが見えない

YOLO!

今を楽しもう！

You only live once,
＝人生一度きり

IIBC

あなたが世界をつなぐ
あなたが世界をつなぐ

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル
TOEIC公式サイト <https://www.iibc-global.org/toEIC.html>

ETS, the ETS logo, PROPELL, TOEIC and TOEIC BRIDGE are registered trademarks of ETS, Princeton, New Jersey, USA, and used in Japan under license. Partners are copyrighted by ETS and used with permission.

本資料の無断転載
複製を禁ず(2024/2)